

総務厚生常任委員会行政視察報告

総務厚生常任委員会の行政視察を10月31日、11月1日の2日間の日程で行いましたので、概要を報告いたします。

1日目の兵庫県西宮市役所では、DXの推進についての視察研修を行いました。西宮市は人口48万3,155人で文教住宅都市として発展してきた都市であります。平成7年に阪神淡路大震災により壊滅的被害を受けましたが、平成20年4月には中核市へと移行しています

令和元年10月に西宮市行政経営改革基本方針を策定し、令和2年度から本格的な取り組みを開始しています。令和3年4月に西宮市DX推進方針を策定し、1年半ほどしか経過していないため、しっかりとできあがっていないとのことですが、5原則にのっとりDXを進め、効率化やコスト削減を目指すだけでなく、業務の在り方そのものの見直しや組織の変革によって、市役所の改革を進めていくとのことでした。

例えば、教育環境のビジョンで1人1台のタブレットは令和2年度末までに全ての小中学校約100校の生徒に導入し、自宅への持ち帰りが可能となっています。このことにより、時間や場所にとらわれず1人1人に合わせた多様性のある学習ができる環境を作っているということで、素晴らしい環境だと感じました。また、職員に対してのデジタル化として、定型業務は外注したりICTを活用したりすることにより業務が効率化され、相談業務や市民ニーズに合わせた施策検討等、職員にしかできない業務に注力できるようになったとのことでした。また、庁舎内では成功例の部署の事例を使い新部署へDX活用を広めていく方法を取っていました。

2日目は廃校利活用のテーマで2か所視察しました。

1か所目は兵庫県淡路市旧尾崎小学校で、平成26年3月まで小学校として使用されていました。また、旧尾崎公民館は昭和53年に開館し地域住民の生涯学習の場として利用されてきましたが、令和2年3月末で機能を停止しています。優れたノウハウを有する民間事業者から本件施設の利用に関する提案を受け、平成27年から協議を続け、令和3年4月に所有権移転となりました。体育館と校庭の一部は住民避難所として市が管理所有し、残った校庭と校舎をオザキ食堂やパン工房として運営しています。利用客の7割から8割は地元の人だということですが、要項の中の目的で定住人口及び交流人口の増加、雇用の創出、地元との交流など地域の活性化になっています。2階は今後宿泊施設やIT関係のオフィスなども視野に入れた計画を考えているとのことであり、民間事業者ならではの使い方だと感心しました。また、市や住民の柔軟な考え方にも驚きました。

2か所目は神戸駅からバスで15分という旧湊山小学校が平成27年3月に閉校

となり、村上工務店が令和元年11月に跡地利活用事業者として認定され、令和4年4月に1階に店舗、ビール醸造所、2階以上に保育所などの入居する旧校舎棟を、令和4年7月には旧体育館棟で水族館をオープンし、令和6年にはヘルスケア関連施設と飲食業が入居する新棟を開業する予定とのことです。これも民間事業者が住民の気持ちや思いを取り入れた民間事業者ならではの利活用だと思います。

今回の視察研修は、現在あわら市が抱えている課題を違う角度から取り組んでいる事例でした。目から鱗と思われる取り組みがありました。同じことはできないとしても、取り組み方は参考になり有意義な研修であったと思います。

以上、当委員会の行政視察の報告といたします。